

帝京倒した
メイジに

同志社アトム

希望見えた



再び全国で当たる時に
胸を借りるつもりで
一定の手応えはあった。

点差

春から好試合を続け、可能性を感じさせる同志社。関東の強豪明大に敗れるも、5点差とあと1歩のところまでに迫った。セットプレーには課題が残ったが、次世代選手の活躍もあり、収穫のある試合となった。

江金(経3)のトライに喜ぶ選手たち(撮影・安本夏望)

同志社のその他のトライ



前半30分 SH 中村圭吾(商3)

前半27分 LO 堀部直柱(社3)

後半20分 FB 安田卓平(商4)

後半13分 FL 中尾泰星(政策2)

後半3分 PR 文祐徹(法2)

上越に光差す

6月10日、上越の天気予報は雨。しかし、曇天を吹き飛ばす紺グレの活躍が光った。今季初の関東勢との対戦となった明大との試合。42対47と惜敗したものの、大きな力の差を感じさせない試合となった。

昨年と異なり、ディフェンス面の仕上がりの良さを感じさせた。フィジカルの強さはもちろん、徹底して人数をかけたディフェンスを行うことで簡単にゲインされない展開を作る。また、モールで押されるシーンでも、気持ちの切り替えがゴールライン際で粘りを見せ簡単にはトライをとらせなかった。「明大はトライを取りにいった形で取っているが、同志社は明大のミスからトライをもらっていますね」。そう試合中の解説では語られていたが、今試合の6トライは確実に同志社がつかみ取ったものである。CTB永富(商4)が

蹴ったボールに対し、前から強いプレッシャーをかけることで、相手のミス誘う。そこからのターンオーバーも素早く、トライにつなげた。課題も当然多くある。特にセットプレーでの失点が目立った。スクラムの際にコラプシングを取られるシーンが多く、そこからモールに持ち込まれ得点を重ねられた。「セットプレーがかなり劣勢だったので、ペナルティーをしないうというところを徹底した」(主将CTB山口・商4)。まずはペナルティーをしないということが次節以降に求められる。

SH中村圭(商3)をはじめとするニューフェースの活躍も光る。積み重ねてきた糧が光を生むとき、秩父宮への道はきつと照らされる。慶大戦でのひとつひとつのプレーから目が離せない。【文・宮ノ原幸佑
レイアウト・於保いちこ】

年	勝	敗
09	●(7-66)	○
10	●(29-38)	○
11	●(7-28)	○
12	●(26-59)	○
13	○(33-26)	●
14	●(18-35)	○
15	●(28-33)	○
16	●(29-36)	○
17	●(19-66)	○

今試合で1勝9敗

同志社	明大
2 T	4 G
2 G	3 P
0 P	0
14 前	26
4 T	3 G
4 G	3 P
0 P	0
28 後	21
42 計	47

◆上越市招待試合対明大◆6月10日
◆高田公園陸上競技場(新潟県)